京都府豊かな森を育てる府民税　事業評価シート

府民税 使途分野	Ⅲ　森林の重要性の啓発
事業名	Ⅲ　豊かな森林継承事業
事業 概要	

１　目的

府民参加の森林づくりが進むよう、活動指導者や次代を担う青少年を育成し、森林の多様な機能や木材、竹材利用に対する府民理解を促進する。

２　内容

森の魅力発信のため、木竹材利用の普及啓発や木竹製品の展示・ワークショップ、林業技術の PR を実施するとともに、若者が森林に親しみ、その大切さを学び次世代へ継承できるよう、木育イベント、竹林整備体験、森林学習交流会、京都府産材を活用した設計コンペを実施した。

３　事業実績（Ｒ７年度）

事業区分	事業費	主な内容
豊かな 森林継承事業	13,443 千円	【府民参加の森づくりの推進】 ・京都モデルフォレスト運動支援強化事業 【次世代を担う青少年の育成】 ・京都山キッズ交流会開催（京都府立丹波自然運動公園）計 172 名参加 ・森林学習会（同志社大学） 【林業技術の魅力啓発】 ・文化庁職員を対象とした北山杉の視察研修会 【木材の魅力啓発】 ・Woody コンテストの開催（作品応募 47 点） ・商業施設等での木材利用啓発イベント(6 回) ・北山丸太の需要拡大に向けた普及チラシの作成 【林産物の魅力啓発】 ・漆を使った草木染体験 ・少花粉スギ球果採取と丹波くり拾い体験 ・漆の絵付け体験 【竹林の魅力啓発】 ・商業施設のでの竹材利用啓発イベント(1 回) ・竹林整備実習と放置竹林の解消に向けた竹材利用の取組（長岡京市立長岡第四小学校） ・放置竹林問題と竹材利用の普及に向けた冊子制作 【合計 757 名参加】



木材利用啓発イベント
（京都市役所前広場）



竹林整備実習
（長岡京市）



京都山キッズ交流会
（府立丹波自然運動公園）



漆を使った草木染体験
（府緑化センター）

自己評価

指標	Ｒ７年度 実績値／目標値 （達成率）	Ｒ７年度までの実績値 ／５年間の目標値
Ⅲ 森林の多様な機能についての府民理解の促進（イベント参加者）	757　人 ／ 600　人 （126%）	3,344 人／3,000 人（111%）

１　上記達成率となった理由

Ⅲ　森林の多様な機能についての府民理解の促進（イベント参加者）

・実際の木竹製品の魅力を視覚的に伝える展示に加え、来場者が主体的に参加できる木工体験等のワークショップを組み合わせることで、来場者の関心を強く引き付け、集客効果を上げた。

・京都市や商業施設と連携し、京都市役所前や BiVi 二条などの集客性の高い場所でイベント開催を行ったことで、多くの方に木竹材利用に関する普及啓発を実施することができた。

２　地域住民や実施主体の意見

・全体を通してイベントの参加者からは、森林や木竹材利用の関心を深めるきっかけとなった、との声が多くあり、木製家具や竹製の小物などを生活に取り入れたいと感想を得られた。

	・小学生を対象とした竹林整備体験では、「あんなに竹林の中がきれいになると思っていなかった」と感想があり、放置竹林における竹林整備の必要性を理解する機会となった。また、竹材利用の啓発イベントでは、参加者の９割の方から放置竹林への関心が高まったとの感想があり、竹林整備活動への参加につながる動機付けとなった。 ・漆を使った草木染体験や絵付け体験は参加者から大変好評で、「また参加したい」との声が多く寄せられるなど、丹波漆の魅力や多様な活用方法への理解が深まり、今後の利用拡大につながる手応えが感じられた。 ・京都山キッズ交流会では、森林散策や森のクイズ大会を通して森林について学んでいただき、「もっといろいろ学びたい」「次も参加したい」「次回は違うことをしてみたい」といった感想が多くあり、森林への関心の高まりがうかがえた。 **３　今後の事業の方向性** ・各種イベントはいずれも好評であり、引き続き、多くの府民が森林の重要性を体感する機会を創出することで、木竹材の利用や地域における森林づくり活動への参画促進を図るため、継続して実施する。 ・また、イベント等の参加者に対し、森林・林業・木材利用に係る関心や理解について、アンケートなどを実施することで傾向を把握し、今後の施策の参考とするとともに、普及啓発事業に関する評価指標とする。
有識者会議の意見	**・森林が持つ多様な機能や森林資源の循環利用の重要性などを、府民に対し解りやすい方法で普及啓発を行い、森林に対する理解を深めていくことが必要である。 ・イベントを効果的に実施するためには、参加者へのアンケートなどにより、森林の重要性に関する理解度を把握するとともに、府内産木材の利用につながっているかを検証することが重要である。**